

松尾多勢子 まさこ 勤王家、歌人。文化八年五月二十五日信濃國下伊那郡山本村生れ、明治二十七年六月十日歿（八二一歳）。豪農竹村常盛の長女。文政十一年近郷の豪農松尾淳齋に嫁す。家事の傍ら福住清風、石川依平に和歌を學ぶ。來郡した岩崎長世の影響で平田篤胤に私淑、文久元年平田鐵胤に入門した。翌年上洛（この折の發足から翌年の歸郷までの事を記した日記録「都のつと」を遺す）、福羽美靜を知りへ歌よみ田金婆さんへの觸込みで權門に近づき、白河資訓、大原重徳等と親交。また久坂玄瑞、藤本鐵石、品川彌二郎等志士とも往來、兩者間の聯絡に當るなどした。慶應四年再上洛、岩倉具視に信任せられ、岩倉家のへ女參事とも稱された。翌年歸郷、爾後農桑の事に餘生を送つた。

川田順の「女丈夫松尾多勢子」（『寒窗記』所收・昭和十五年五月）十日第一書房）に、和歌に關しては同じ勤王女流歌人野村望東尼の方がへ段違ひの玄人みねととある。他は、市村威人著『松尾多勢子』（昭和五年六月一日長野・信濃郷土文化普及會「信濃郷土叢書」）、安間公觀著『幕末の愛國女性―松尾多勢子の生涯』（昭和十三年九月十日青生社）等。